

## わかちがきのしかた

わかちがきはだれでもできます。キマリを覚えなくても直感でできます。ただ、一貫した書き方をするためには、次のようなキマリを身につけるとよいでしょう。



1-1 単語と単語の間は分ける。

(例) タイヨウ ハ ヒガシ カラ ノボリ ニシ ニ シズム。

1-2 慣用句などもこのキマリによる。

(例) ウリ フタツ , スズメ ノ ナミダ , スカ ニ クギ

1-3 動詞、形容詞などにつながる次の\_\_\_\_のたぐいのコトバは常に単語の中の要素として扱う。(助動詞の多くや接続助詞の一部など)

(例) タベテ , カンガエタリ , ヨミナガラ ; ゲンキソウ ; タベスギル

1-4 文を終わりにすることのできる次のコトバはそれだけで単語と見る。

ダ , デス , ラシイ (推測) , ナイ , マイ , ナ (禁止)

1-5 したがって次のようなコトバはいくつかの単語が並んでいるものと見る。

(1) 判断を表わして、文を終わりにすることができるコトバなど

(例) デ アル/ゴザイマス/ナイ; イク ダロウ/デショウ/ラシイ/マイ/ナ;  
オイシク/シラセテ ナイ; (形容動詞など) シズカ ダ/デス, オモ ナ/ニ

(2) 互いに置き換えたり、前に助詞が来たりできる動詞「スル、ナル、ナサル、イタス、デキル」などを含む次のたぐいのコトバ。

(例) ソン/トク/ラク/ヨウイ/ホツト スル/ナサル/イタス/デキル ;  
オシラセ/ゴホウコク イタダク/クダサル ; キ ニ スル/ナル/カカル ;  
タノシク/ニギヤカ ニ/ヒツヨウ デ ナク ナル

2-1 組み合わせ語 (複合語など二つ以上の要素を含む単語) の動詞と形容詞は、長さにかかわらずなく一つづりに書く。

(例) アイスル , キニイル , オモイアタル ; モッタイナイ , ウタガイブカイ

2-2 活用のない組み合わせ語で長さが6拍以下のものは、原則として一つづ

りに書く。

(例) キマジメ , ツツミガミ , マツリバヤシ

**2-3-1** 活用のない組み合わせ語で長さが7拍以上のものは、原則としてどの部分も6拍以下になるように分ける。

(例) シゼン コウエン , ベーコン レタス サンドイッチ

**2-3-2** 意味を取り違えられる恐れのない場合、コトバ本来の組み立てにこだわらず読みやすい分け方にしてよい。

(例) ユウビン キョクチョウ ( <(ユウビン+キョク)+チョウ )

**2-3-3** 1拍または2拍だけの部分が離れてしまう場合は、ツナギ (-) を入れて7拍以上を一綴りにしてもよい。

(例) オリタタミ-シキ , ダイガクセイ-フウ , カリ-リョウシュウシヨ

**2-4** 組み合わせ語を書くとき、読みにくかったり意味の取り違えがおきたりする恐れのあるときは、適当にツナギを入れる。ただし、ツナギの前または後がおおむね2拍以下の場合とする。

(例) スエ-オソロイ ; フク-シブチョウ ; トモダチ-ドウシ

**3** 数のコトバを算用数字とカナを組み合わせる場合、算用数字と後に付属する単位など(助数詞、万、千などを含め)をまとめて、単位ごとに分けて書く。

(例) 25,000エン ; 2マン 5,000エン ; 2ガツ 21ニチ

**4** 助詞の「へ、に、で、を、と」、「だ」の活用形の「に、で」のどれかのうしろに助詞の「は、も、の」のどれかが続くときは、それらをつないでまとめて書くことができる。

(例) ココ へ キタ , オトウト も ヤッタ ; ジョウブ で アル



このキマリは、ワタナベ サトシ氏があらわした『わかちがき ノ テビキ』などをもとに、編集部の責任でまとめました。(文やコトバを加え、はぶき、あるいは替えた。)

[トップページへ](#)

【カオモジカイ キカンシ 「カナノヒカリ」 958ゴウ (2014ネン フユ) カラ】  
(イチブ カキアラタメタ。)